

松戸キャンパス  
Matsudo Campus

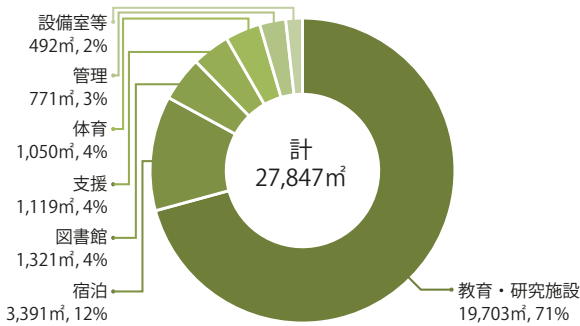
現状と課題

# 松戸キャンパス概要

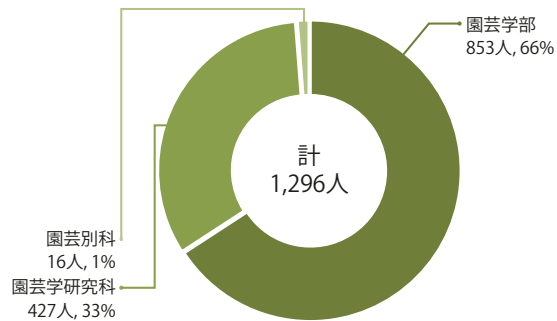


所在地	松戸市松戸 648
設置年度	昭和 24 年
建築面積	12,281 m <sup>2</sup>
延床面積	27,847 m <sup>2</sup>
敷地面積	148,398 m <sup>2</sup>
棟数	44 棟
学部	園芸学部
大学院	園芸学研究科・園芸学研究院
センター等	附属図書館分館

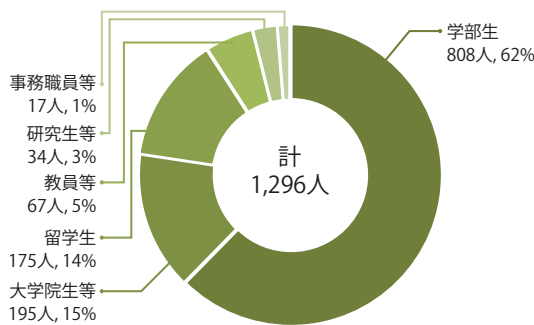
施設面積：施設実態報告面積等集計表 (R3.5.1) 施設環境部  
 構成員：大学概要データ (R3.5.1) 留学生データ (R3.5.1) ヒアリング



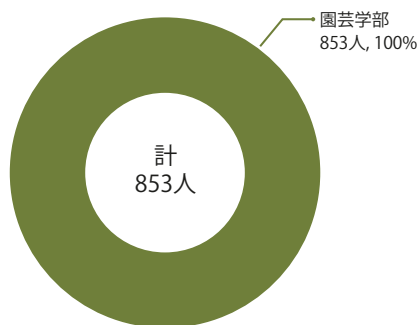
区分別面積分布



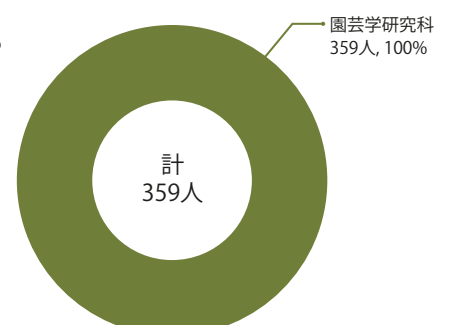
所属別構成員比(学生・教職員)



分類別構成員比(学生・教職員)



構成員比 学部生



構成員比 大学院生

# 01-1 周辺地域・土地利用



キャンパス周辺マップ

## ■ CMP2017 からの変化

## ■ 現状・課題

松戸駅から住宅地を抜けて北門へのアクセスがメインの通勤・通学路線となっている。

- ・キャンパス南東端の地下に松戸トンネルがあり、建物建設が困難なゾーンとなっている。
- ・国指定名勝の戸定ヶ丘歴史公園と連続している特徴をどのように生かすか。
- ・急傾斜地の管理が必要
- ・キャンパス周辺部の樹林は松戸市の保存樹林に指定されている。

## ■ 検討の方向

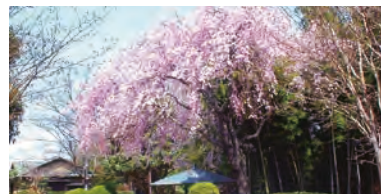
- ・急傾斜地の崩落防止も考慮しながら適切な樹林管理の検討



① 北門



② 松戸トンネル(国道6号線)



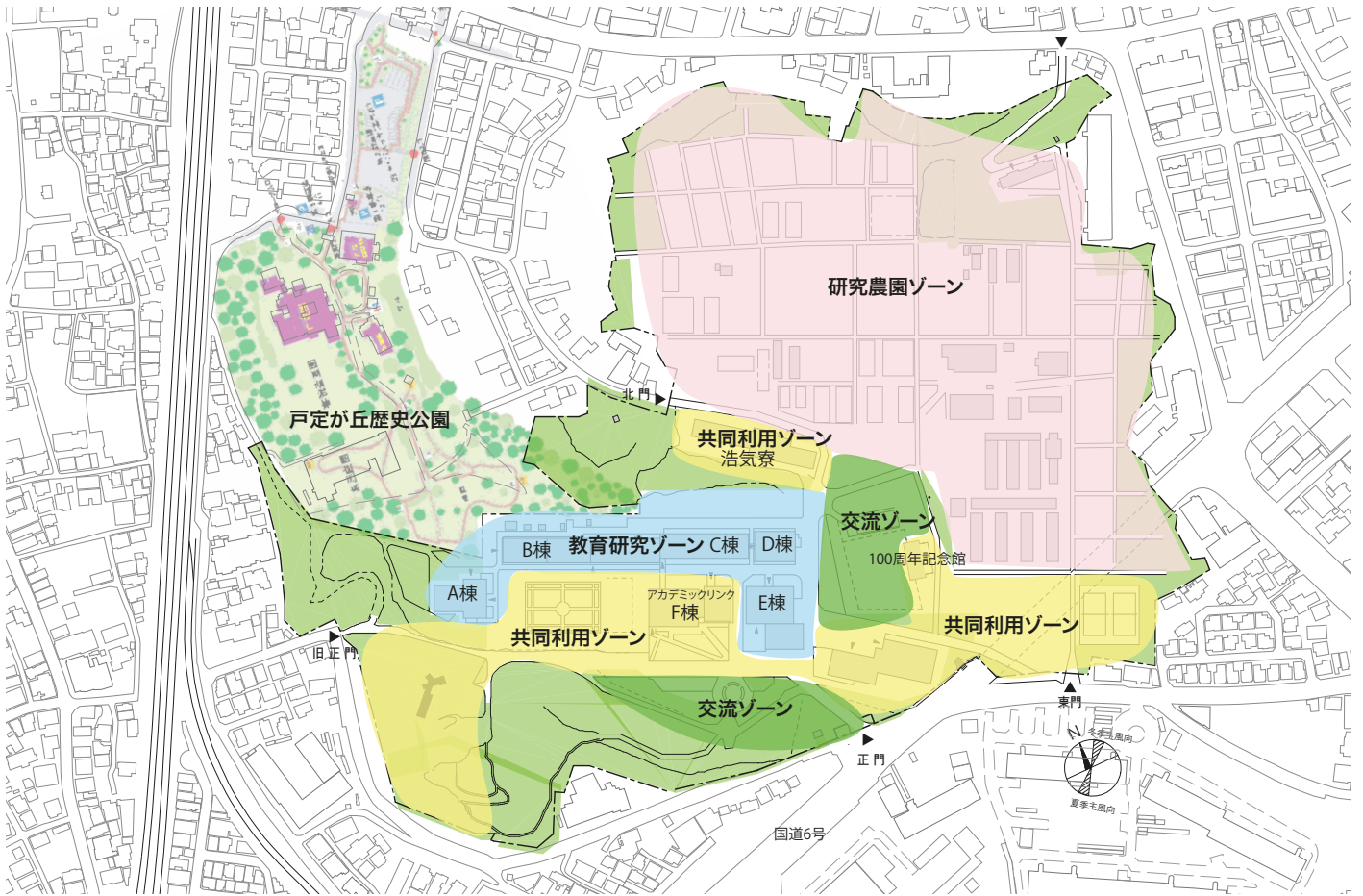
③ 戸定ヶ丘歴史公園



④ キャンパス周囲の急傾斜地



# 01-2 機能別ゾーン



現況ゾーンマップ

## ■ CMP2017 からの変化

- ・アカデミックリンクセンターとF棟、緑のテラスの完成により、東西の共同利用ゾーンの連携が向上した。

- ・ PPP、PFI を活用した教職員宿舎廃止後の施設の利用を検討
- ・ 地域連携・産学連携を含めた各ゾーンの明確化

## ■ 現状・課題

松戸キャンパスは園芸学部・研究科の単一部局の利用で、教育研究ゾーン、研究圃場ゾーン、共同利用ゾーン、宿舎ゾーン、運動場ゾーン、緑地ゾーンに分かれている。

- ・ 主な入口としての北門周囲の空間が、キャンパスの「顔」としてふさわしくない。

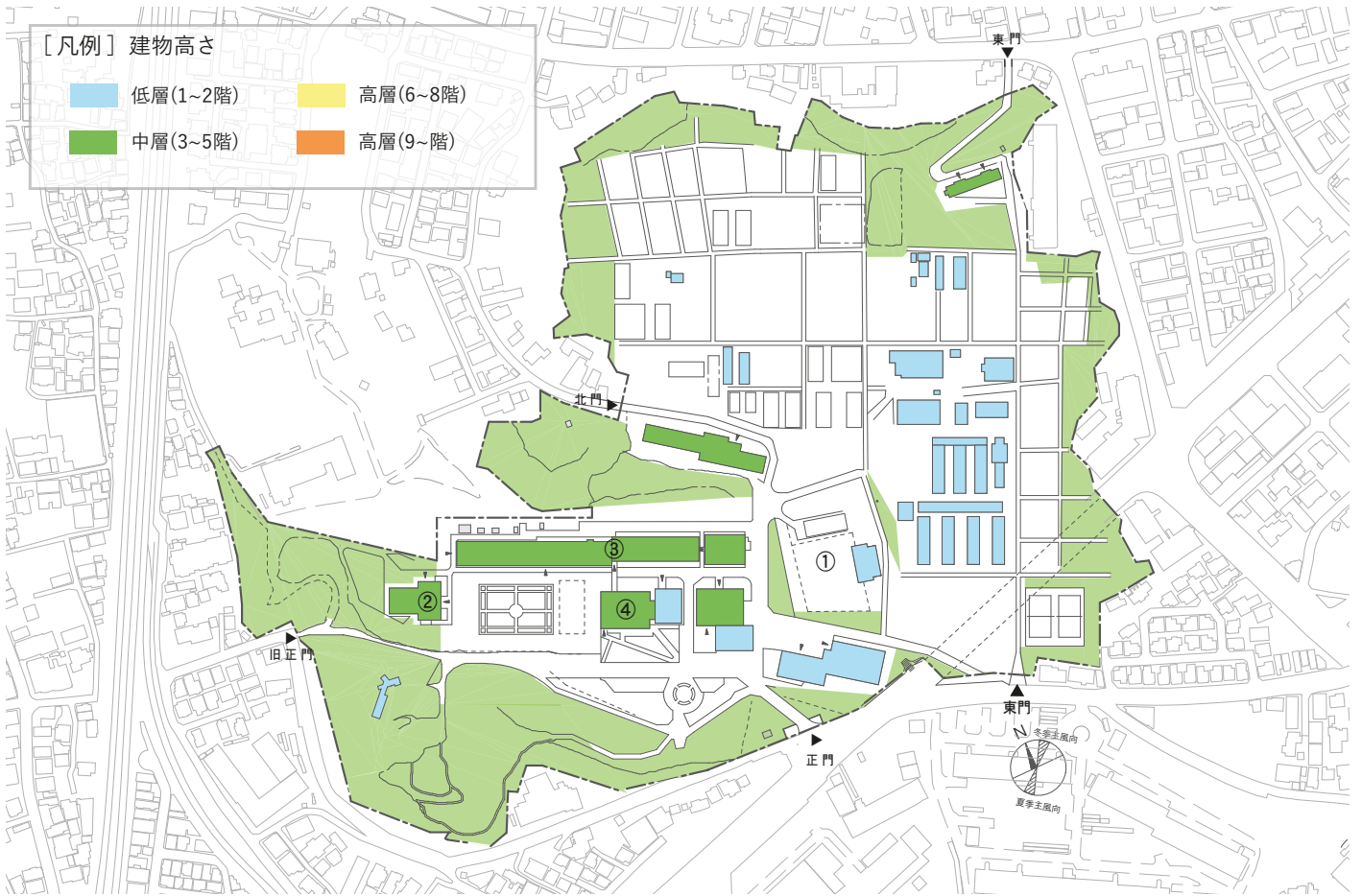
教育研究ゾーン	園芸学部 園芸学研究院 フランス式庭園 イタリア式庭園
研究圃場ゾーン	研究圃場
共同利用ゾーン 地域交流ゾーン	附属図書館松戸分館・アカデミックリンク 緑風会館 洗心倶楽部 戸定ヶ丘ホール
緑地ゾーン	保存樹林

(表) 機能別ゾーン一覧

## ■ 検討の方向

- ・ 教育・研究の発展を支えるゾーニングの検討
- ・ 現北門を「正門」として位置づけ、それに続く交流ゾーンの構築
- ・ 研究圃場ゾーンの教育研究ゾーンや運動場ゾーンへの転換や利活用

# 01-3 建物デザイン・高さ



建物高さ分布図

施設環境部データ集より

## ■ CMP2017 からの変化

- ・2019年に園芸学部F棟
  - ・2019年にアカデミックリンクセンター
  - ・2020年に緑のテラス
- が完成した。

## ■ 現状・課題

- ・松戸キャンパスは高層の建物がない。
- ・キャンパス内の建物の色、デザインの調和がとれていない。
- ・北門から始まるメインアプローチに「顔」となるデザインがない。

## ■ 検討の方向

- ・北門からアクセスを前提とした建物の配置、建物入口の検討
- ・キャンパス全体の建物配置計画と合わせて、壁面線、建物高さ、スカイライン、外装色、材料等に関するガイドラインの検討



① 戸定が丘ホール



② A棟

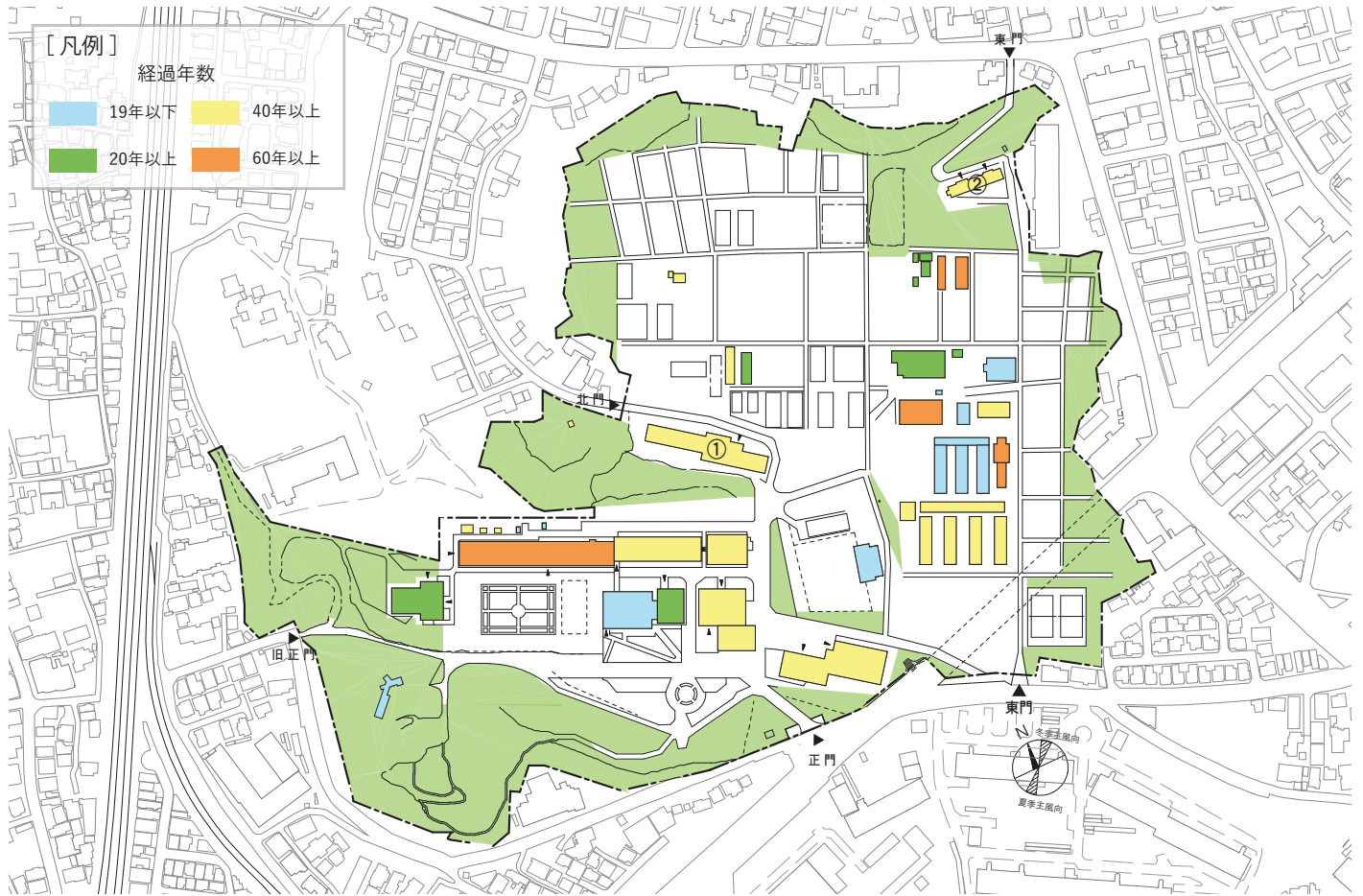


③ C棟



④ アカデミックリンクセンター

# 01-4 建物老朽



建物経年別・機能改修状況別配置図

施設環境部データ集より

## ■ CMP2017 からの変化

- ・ 2019 年に園芸学部 F 棟の機能改修を行った。



① 浩気寮

## ■ 現状・課題

- ・ 松戸キャンパスにある建物 27,847 m<sup>2</sup>のうち、全面的な機能改修後 25 年以上経過した建物はない
- ・ 職員宿舎は 1971 年に建設され築 51 年経過するが、2016 年末で利用停止とした。
- ・ 研究室が手狭となり、プレハブ実験室を利用している。



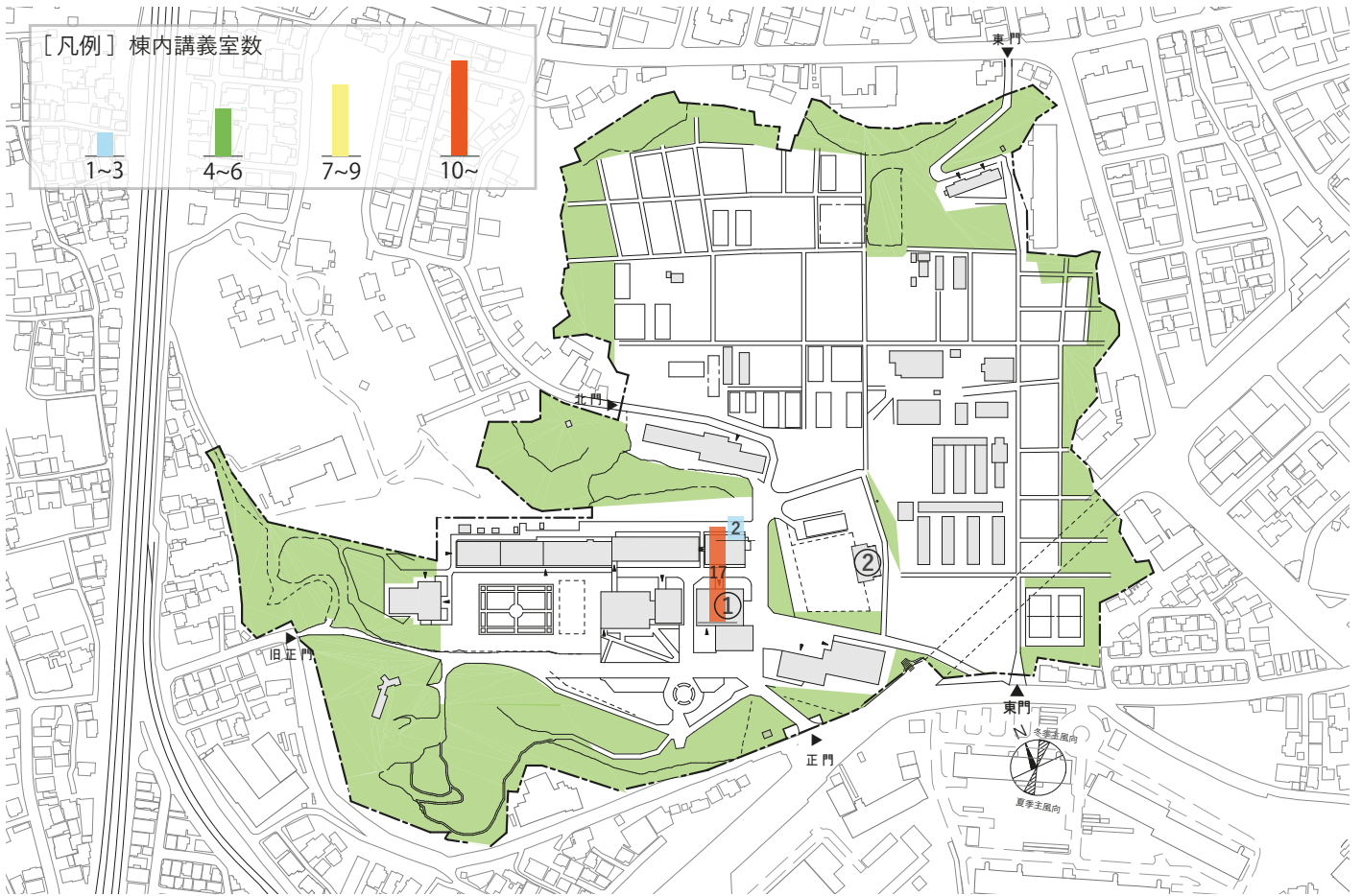
② 旧職員宿舎

## ■ 検討の方向

- ・ 将来的な改修保全と建替えの判定方法を検討。  
劣化防止計画に反映
- ・ 生物・科学実験室、共通実験室の改築検討
- ・ 動物飼育室の整備



# 01-5 講義室



講義室分布図

施設環境部資料より

## ■ CMP2017 からの変化

60%以上の稼働率をもつ面積割合  
21.0%(2020年)

## ■ 現状・課題

松戸キャンパスには、全体で19室の講義室がある。稼働率についてみると60%以上の稼働率をもつ面積割合は21%である。アメニティアンケートでは、約47%が教室の快適性について不満を感じている。

- ・クラスサイズの拡大構想に対応した大規模講義室が必要となっている。
- ・オープンキャンパス、産学連携、地域貢献に資する大規模講義室がない。

## ■ 検討の方向

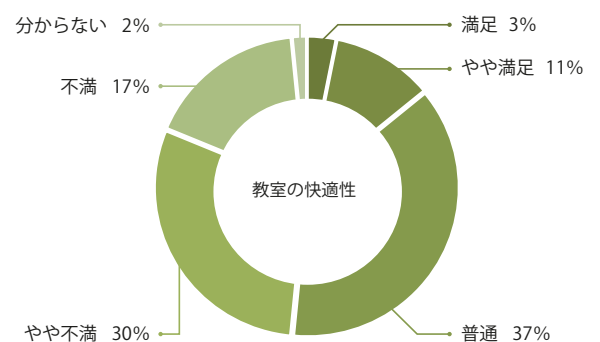
- ・稼働率の低い講義室の有効活用
- ・戸定ヶ丘ホールの活用
- ・建物配置計画とゾーニングに反映



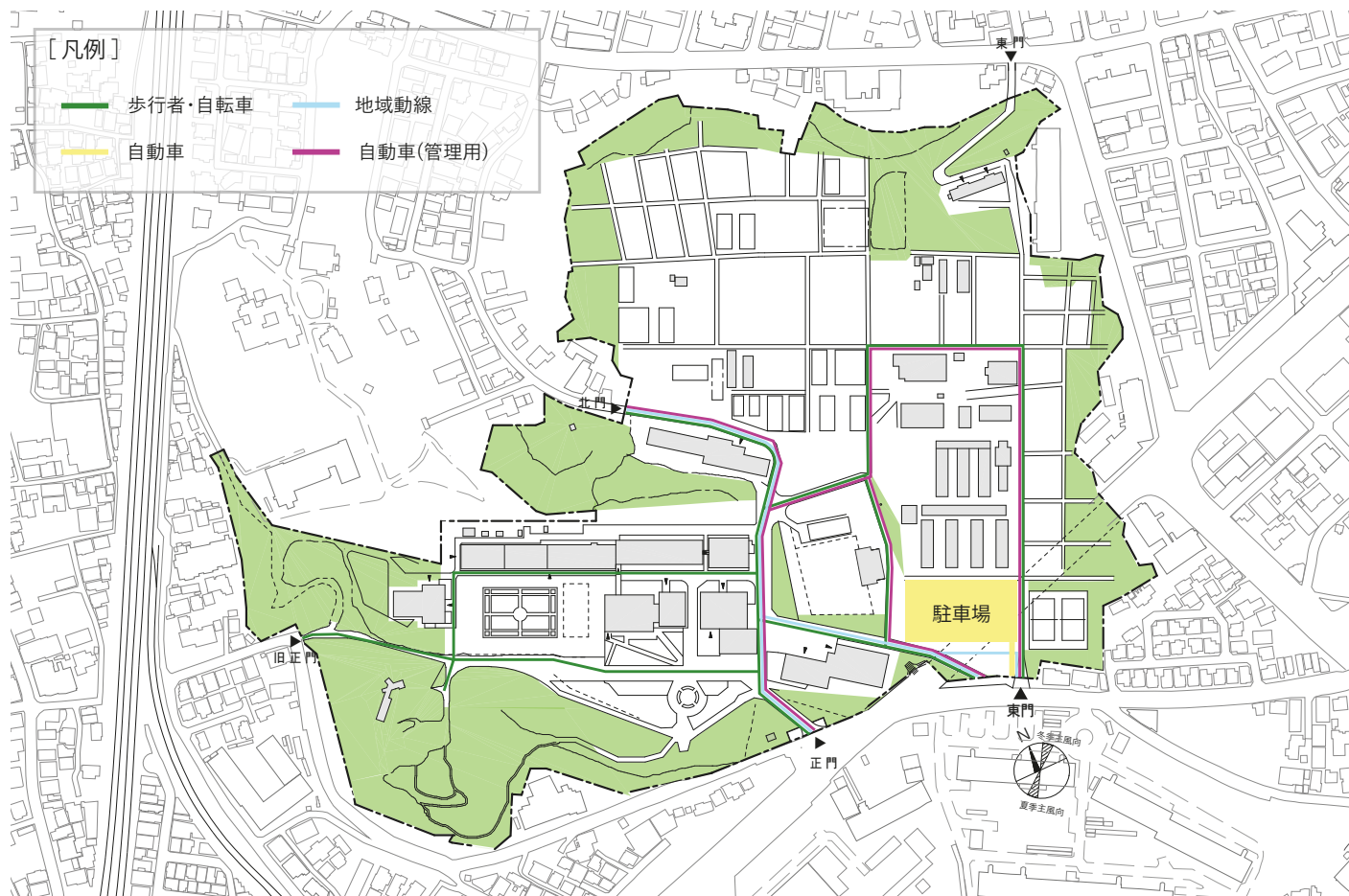
① 講義室E棟



② 戸定ヶ丘ホール



# 02-1 交通動線



交通動線図

施設環境部データ集より

## ■ CMP2017 からの変化

- ・国道 6 号線拡幅に伴い正門付近の土地を一部譲渡
- ・駐車場の有料化 (2017 年 5 月) に伴い、自動車の出入口の見直し、車両動線の見直しを図った。

## ■ 現状・課題

松戸キャンパスには、北門、正門 (南門)、東門、旧正門 (西門) の 4 カ所の門がある。業者車両の進入は正門と北門に限られている。駅に近い北門が現在メインアプローチとして機能しており、教職員、学生の出入りが最も多い門である。北門周辺は、歩行者・自転車の安全を確保するため一般車両による通り抜けを禁止している。

## ■ 検討の方向

- ・交通手段の優先順位 (歩行者>自転車>自動車)。歩行帯・自転車レーンを設け (その結果十分な車線幅が確保できなくなりますが、逆にそうすることで、自動車が交通弱者に配慮できるようにする。)



北門



正門



旧正門



東門



# 02-2 駐輪場



駐輪場分布図

施設環境部データ集より

## ■ CMP2017 からの変化

## ■ 検討の方向

### ■ 現状・課題

### ・ゾーニング計画に合わせた駐輪場設置

松戸キャンパスには、7カ所に283台の駐輪場がある。

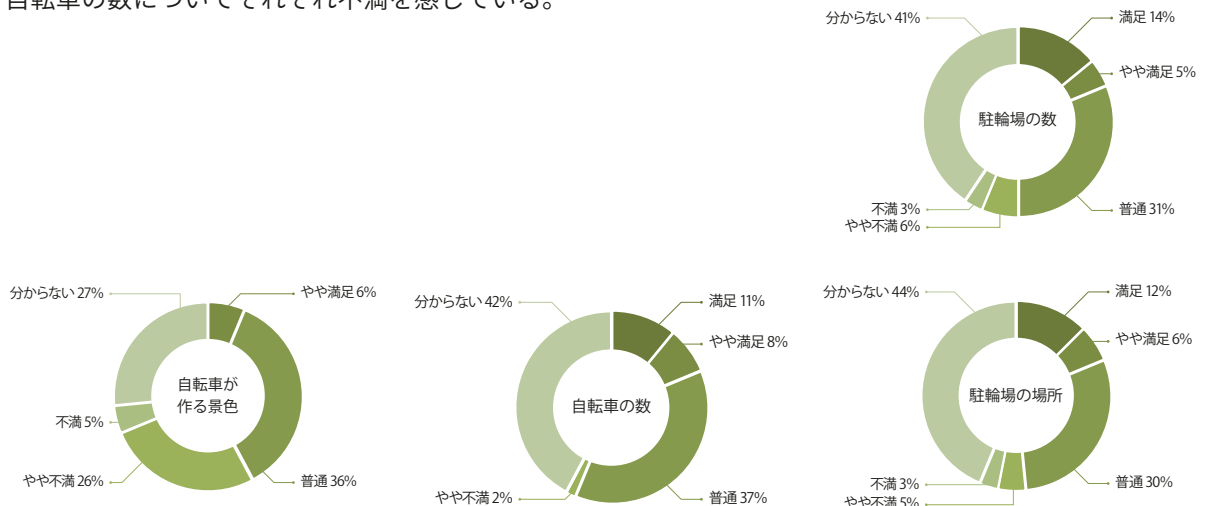
アメニティアンケートでは、約8%が駐輪場の場所について、約9%が駐輪場の数について、約2%が自転車の数についてそれぞれ不満を感じている。



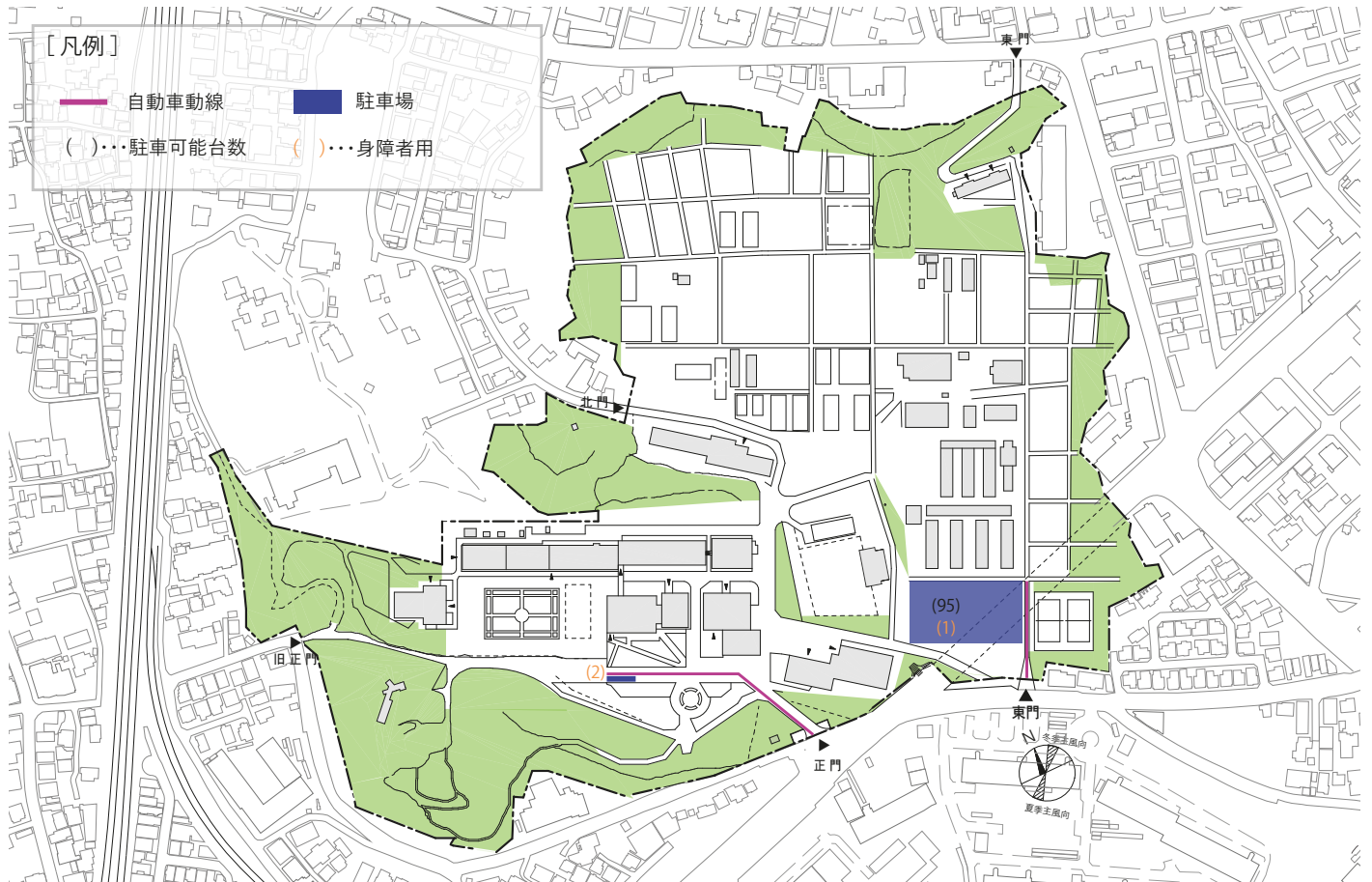
① C棟裏



② E棟前



# 02-3 駐車場



駐車場分布図

施設環境部データ集より

## ■ CMP2017 からの変化

駐車場の有料化 (平成 29 年 5 月 ~)

## ■ 現状・課題

松戸キャンパスには、2カ所に 98 台の駐車場 (身障者用駐車スペース 3 台、一般者用駐車スペース 95 台) があり、管理運営を外部業者に委託している。

## ■ 検討の方向

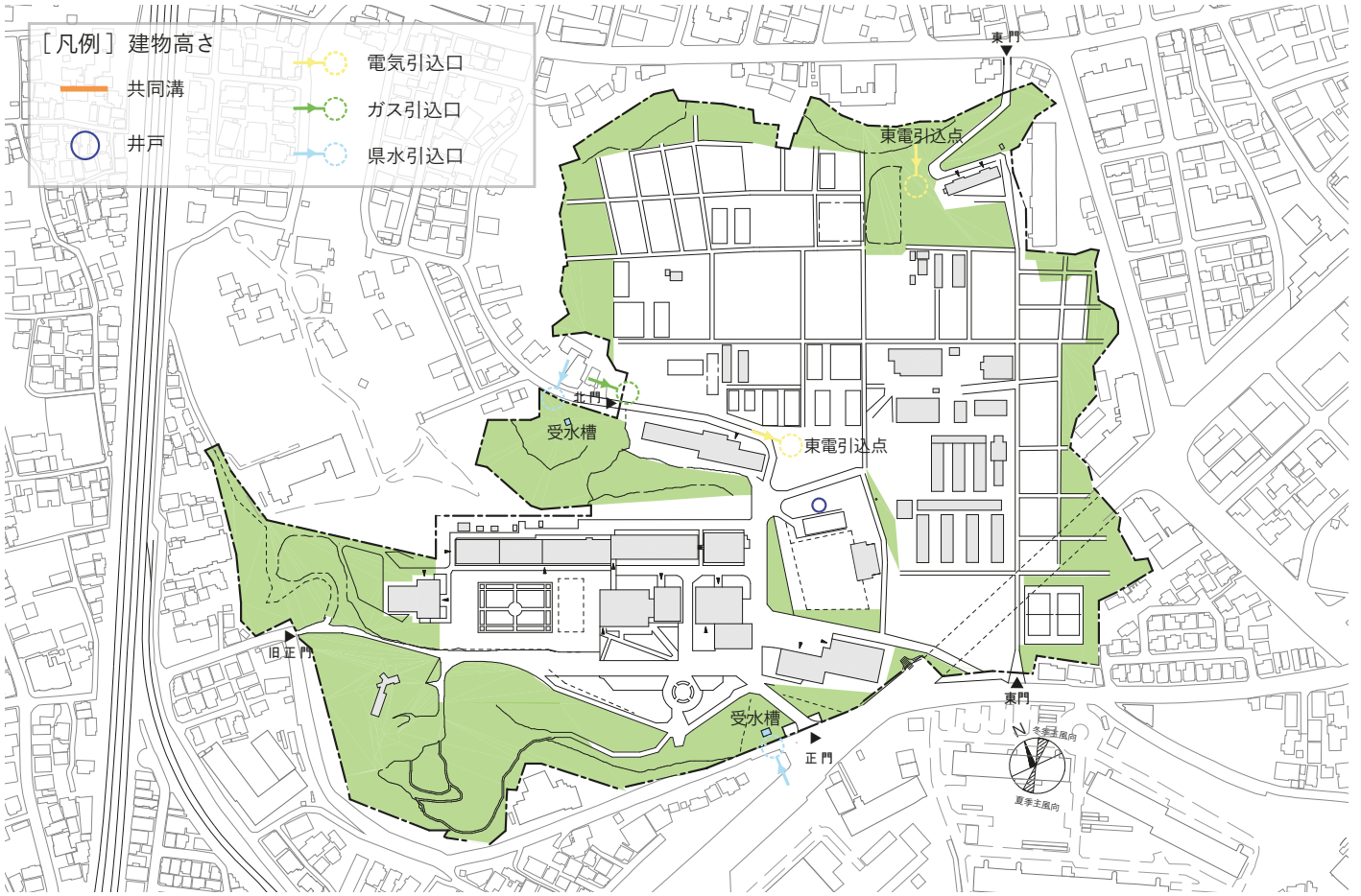


東門周辺駐車場



車椅子用駐車場

# 02-4 基幹設備



基幹設備図

施設環境部データ集より

## ■ CMP2017 からの変化

- ・給水管の老朽改修及び耐震化を計画している。

## ■ 現状・課題

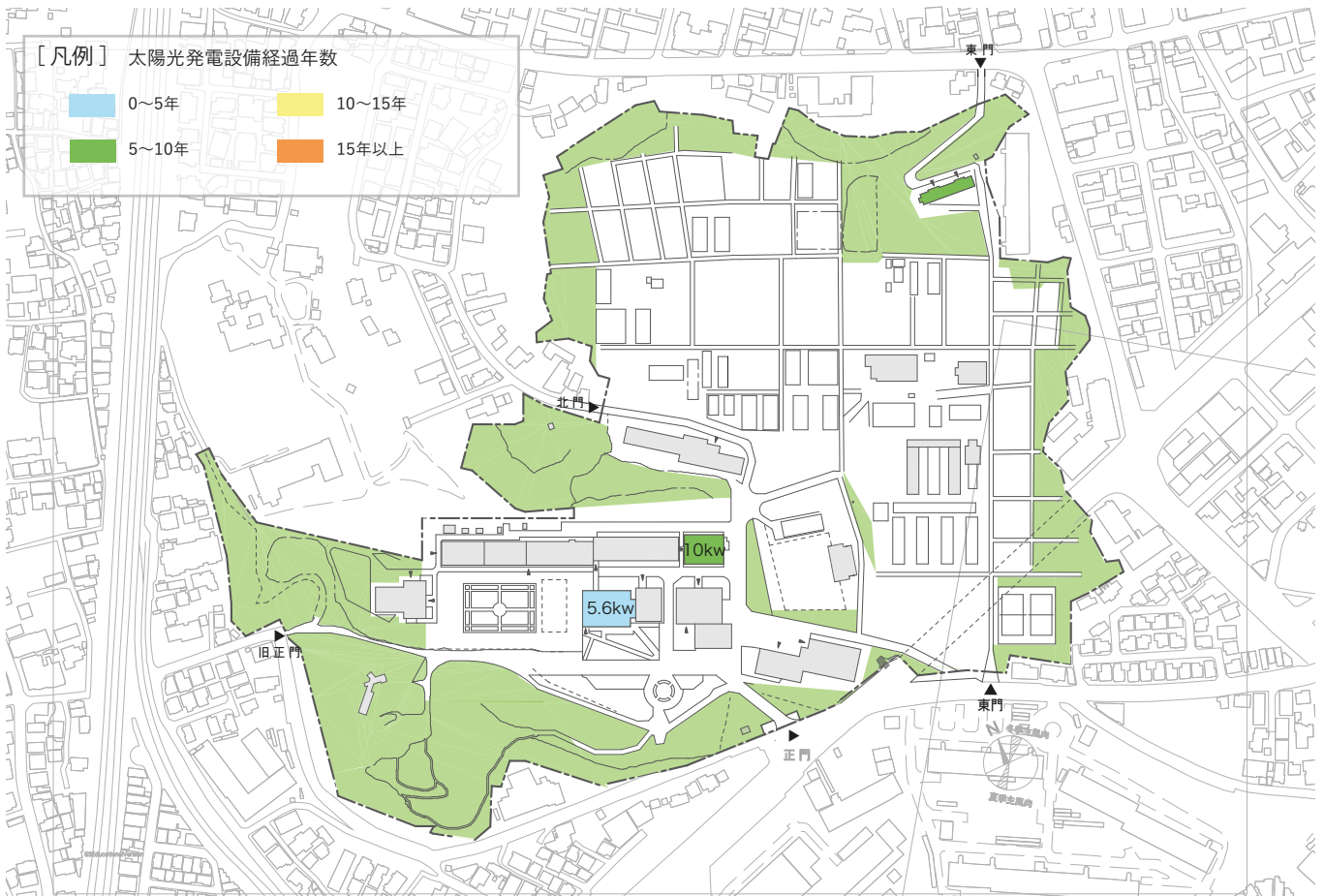
松戸キャンパスの共同溝の設置は、一部に留まっており、その他の電気、ガス、上下水道のインフラ設備は大地震の発生時には被害を受ける可能性がある。

## ■ 検討の方向

- ・維持管理コストの低減を図る共同溝の段階的整備手法
- ・修繕や設置期間と場所など管理の記録のデータ化
- ・災害に強い基幹設備



# 02-5 エネルギー消費量・CO<sub>2</sub> 排出量・創エネルギー量

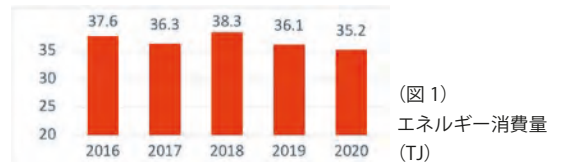


太陽光パネル分布図

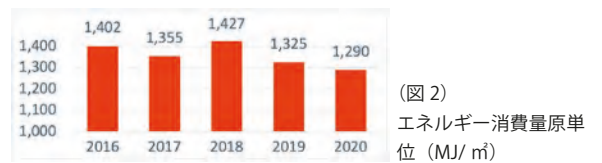
施設環境部データ集より

## ■ CMP2017 からの変化

- ・年間エネルギー消費 (GJ)  
37.6(2016) → 35.2(2020)
- ・年間エネルギー消費量原単位 (MJ/ m<sup>2</sup>)  
1,402(2016) → 1,290(2020)
- ・年間 CO<sub>2</sub>排出量 (t)  
1,896(2016) → 1,690(2020)
- ・年間 CO<sub>2</sub>排出量原単位 (t-CO<sub>2</sub> / m<sup>2</sup>)  
70.7(2016) → 62.0(2020)
- ・2020(令和2)年に5.6KWの太陽光発電設備を設置



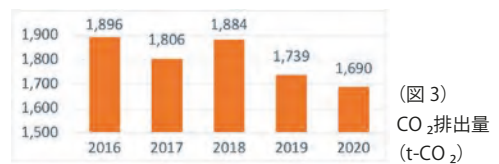
(図1) エネルギー消費量 (TJ)



(図2) エネルギー消費量原単位 (MJ/ m<sup>2</sup>)

## ■ 現状・課題

- ・松戸キャンパスは2020年度に年間35.2TJのエネルギーを消費しており(図1)、年間1,690tのCO<sub>2</sub>を排出している(図3)。
- ・太陽光発電設備が2カ所15.6kW設置されている。



(図3) CO<sub>2</sub>排出量 (t-CO<sub>2</sub>)

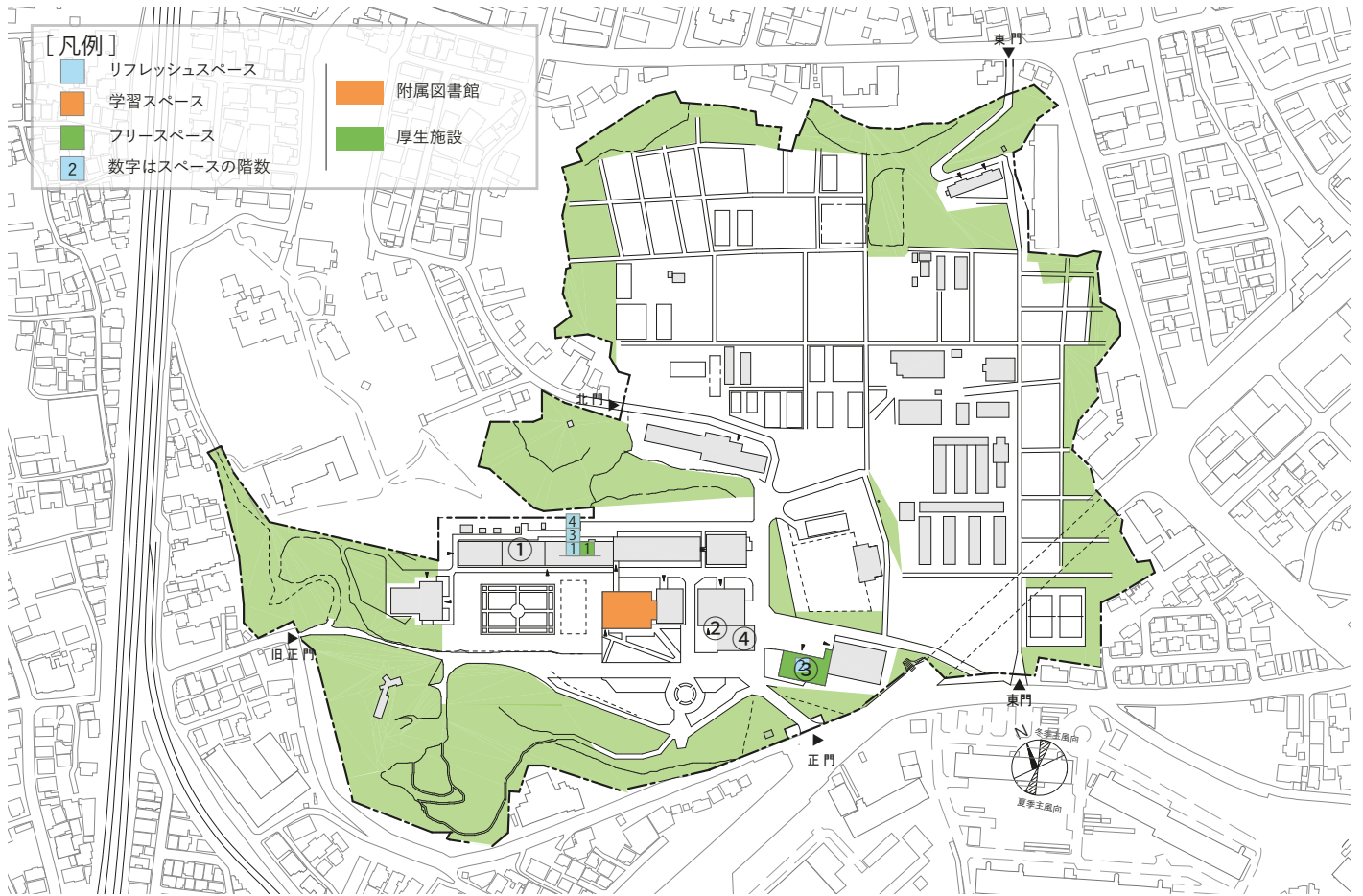
## ■ 検討の方向

- ・太陽光発電設備など自然エネルギー活用の具体的方策



(図4) CO<sub>2</sub>排出量原単位 (t-CO<sub>2</sub> / m<sup>2</sup>)

# 03-1 学生スペース・交流スペース



学生・交流スペース分布図

キャンパス整備企画室調査より

## ■ CMP2017 からの変化

屋内休憩・交流スペースの不満度

55%(2016) → 66%(2021)

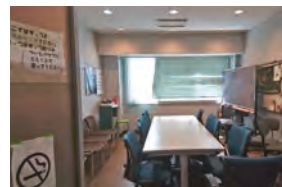
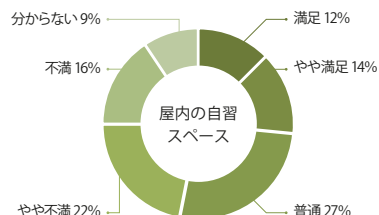
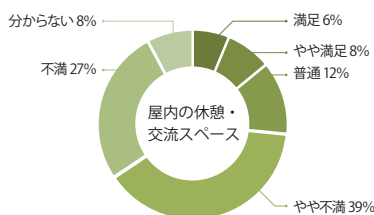
配置されていること、用途が明確でない事、什器等が老朽化しているなどを改善し、学生の便宜を図る必要がある。

## ■ 現状・課題

- ・リフレッシュルームが5か所、183 m<sup>2</sup>。フリースペースが5か所、526 m<sup>2</sup>あり、各建物に分散配置されている。福利厚生施設は緑風会館。アンケートでは約66%が屋内休憩・交流スペースに不満を感じている。・学習、懇談、食事などを含めた学生用スペース（ラウンジ）が存在するが、各建物に分散

## ■ 検討の方向

- ・教育、研究施設だけではない学びの場を形成するため、学習スペース、学生や教職員、学外者の交流の場の充実



① リフレッシュコーナー



② 学生ホール



③ 緑風会館内休憩室



④ 学生ホールのピロティ

# 03-2 広場・オープンスペース



広場・オープンスペース分布図

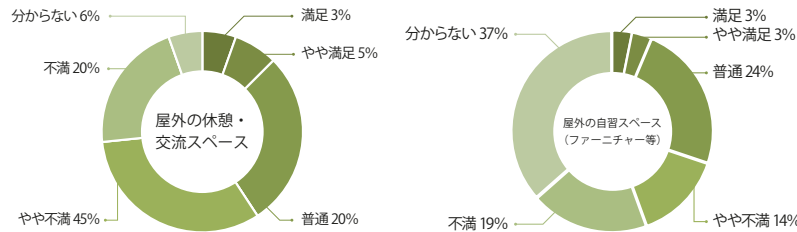
キャンパス整備企画室調査より

## ■ CMP2017 からの変化

屋外休憩・交流スペースの不満足度  
45%(2016) → 65%(2021)

## ■ 現状・課題

- ベンチのある広場が5か所ある。アンケートでは約25%が屋外の自習スペースに不満を感じている。



## ■ 検討の方向

- バランスの良い配置
- 交流ゾーンであるアプローチ（門）の直近に広場を配置



① 厚生施設前



② 戸が丘ホール前



③ A棟周辺



④ E棟南



# 03-3 樹木・緑地



樹木・緑地分布図

キャンパス整備企画室調査より

## ■ CMP2017 からの変化

- ・ 樹木の量についての不満足度  
4.6%(2016) → 5%(2021)

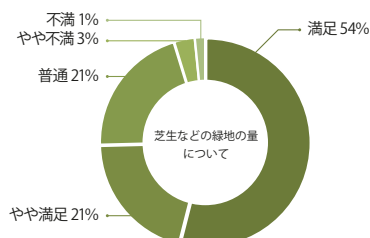
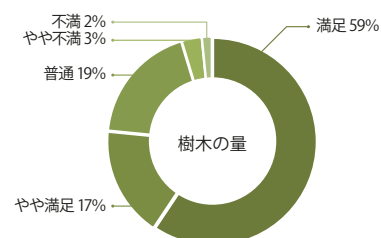
- ・ 場当たりの植樹（記念植樹など）
- ・ 隣接地への日影や落葉等の影響
- ・ 庭園区域は外部に開放しているが、区域、時間、期間等の限定が必要である。

## ■ 現状・課題

- ・ 松戸キャンパスには約 400 種類にも及ぶ樹木があり、フランス式庭園、イタリア式庭園、昭和初期のガラス温室、戸定ヶ丘歴史公園に連続する緑の回廊、斜面地の緑、ロックガーデン、樹齢 90 年のクスノキ、などの歴史的なランドスケープがある。樹木の量についての満足度は高く（図1）、緑地の量についても満足度は高い（図2）。

## ■ 検討の方向

- ・ 緑化環境（屋外環境・ランドスケープ整備）計画
- ・ 維持管理計画（指針）
- ・ 記念文化財名勝指定の検討
- ・ 地域住民が活用できるセキュリティシステムの構築

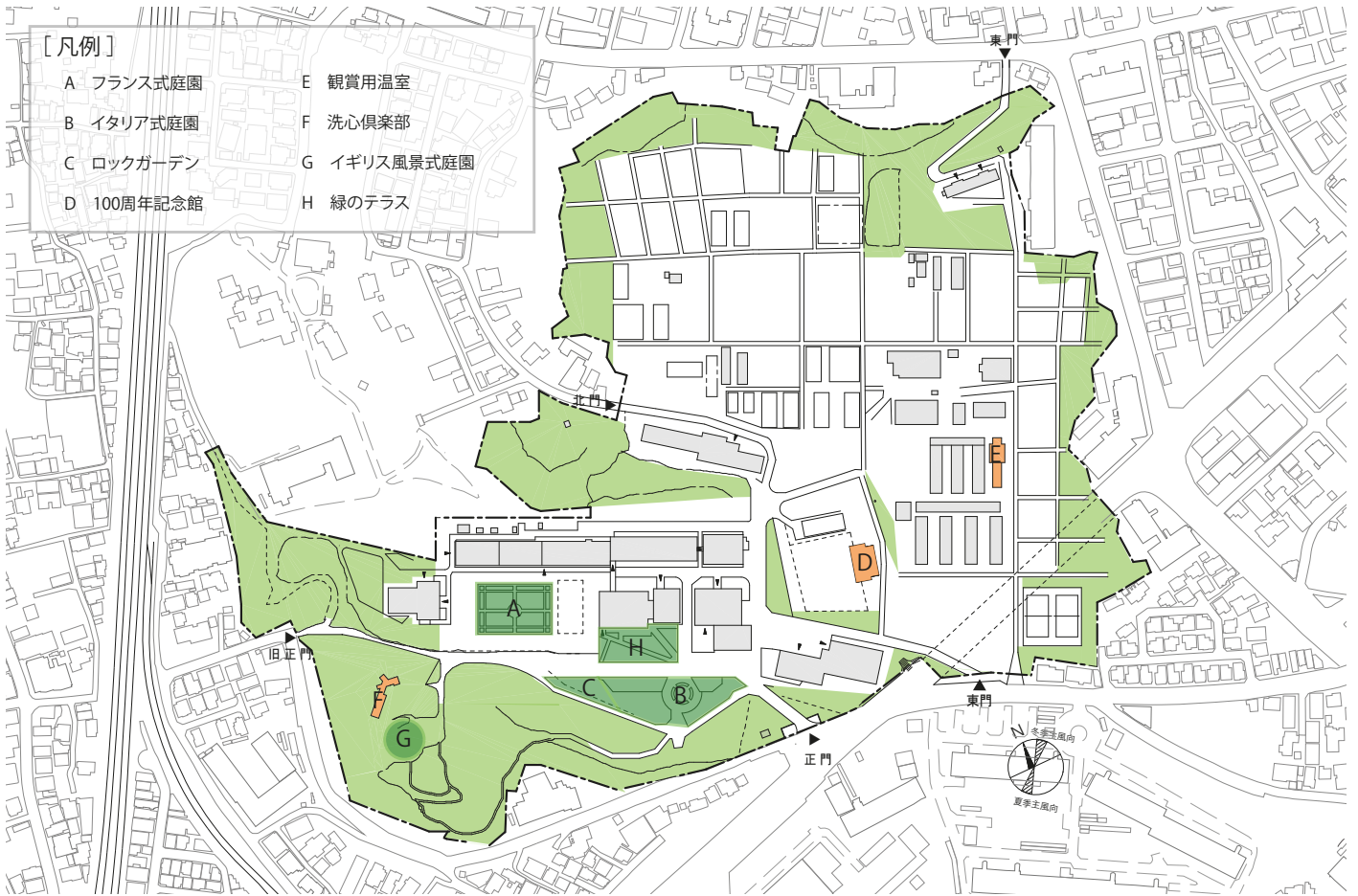


① フランス式庭園



② イタリア式庭園

# 03-4 シンボル・歴史資源



シンボル・歴史資源分布図

千葉大学ホームページより

## ■ CMP2017 からの変化

## ■ 現状・課題

キャンパスの周辺部の樹林は松戸市の保存樹林に指定されている。明治末年から大正初期に造成されたイタリア式、フランス式、イギリス風景式庭園、ロックガーデンは、その周囲の樹林と合わせて国指定名勝候補に挙げられている。

## ■ 検討の方向

- ・ 歴史資源を活用した整備の検討
- ・ ランドマーク、アイキャッチの検討



A フランス式庭園



B イタリア式庭園



C ロックガーデン



D 戸定ヶ丘ホール



E 観賞用温室



F 洗心倶楽部



# 03-5 サイン・情報掲示



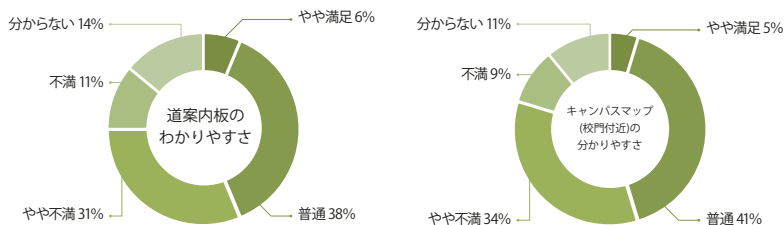
サインマップ

キャンパス整備企画室調査より

## ■ CMP2017 からの変化

## ■ 現状・課題

・松戸キャンパスのサインは、表示サイン、誘導サイン、案内サインのデザインがばらばらで統一感がない。アメニティアンケートでは、約 42% が道案内板の分かりやすさに不満を持っている。



## ■ 検討の方向

- ・サインの整備計画
- ・国際化に対応する表記方法
- ・情報発信のための掲示手法のあり方
- ・動線計画見直しの交通サインへの反映



① キャンパスマップ全体



学部棟案内図



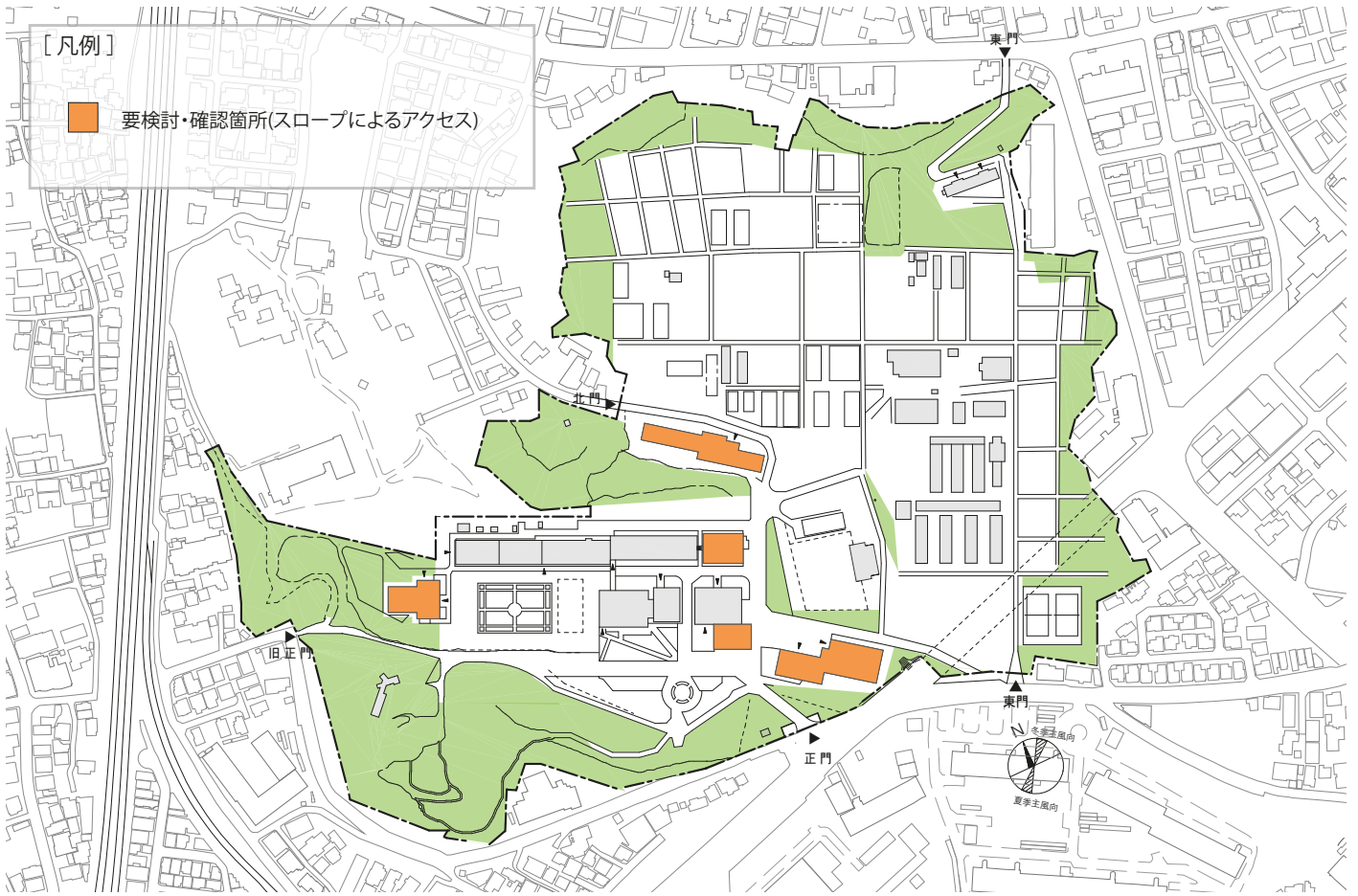
② 建物誘導板



フロア案内板



# 04-1 バリアフリー



バリアフリーマップ

施設環境部調査より

## ■ CMP2017 からの変化

- ・バリアフリーの不満足度  
51.1%(2016) → 26%(2021)

## ■ 現状・課題

松戸キャンパスでは、身障者エレベーター、身障者トイレ、スロープの整備を推進中である。アメニティアンケートでは、約 26%がバリアフリーについて不満を感じており、解消する必要がある。

- ・バリアフリー整備を推進中であるが、十分ではない。

## ■ 検討の方向

- ・バリアを解消する整備手法の検討
- ・ユニバーサルデザインの検討



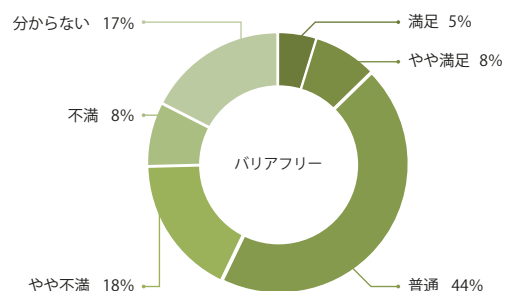
スロープ



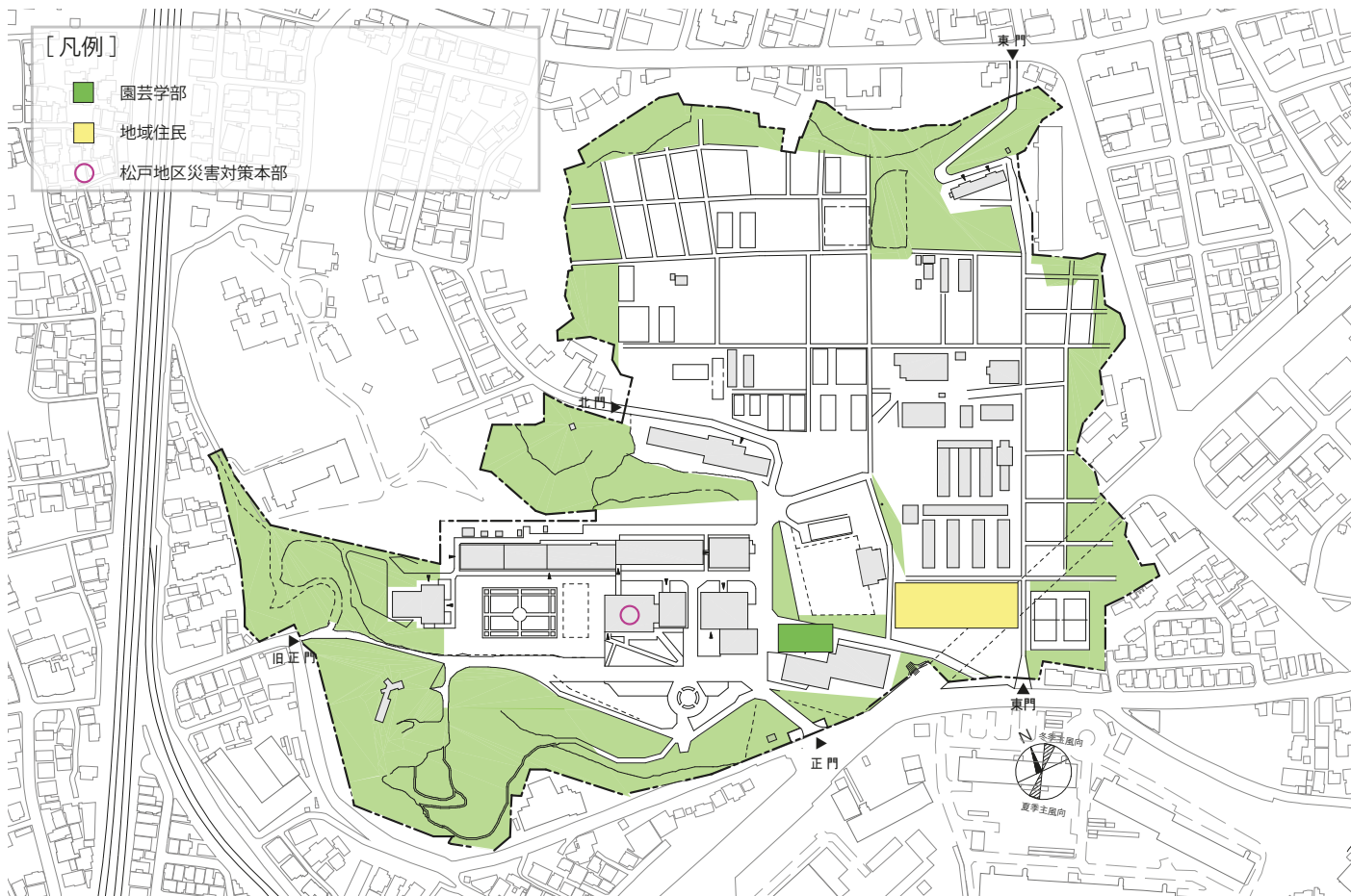
スロープ



身障者用トイレ



# 04-2 避難場所



避難所マップ

千葉大学防災のしおりより

## ■ CMP2017 からの変化

## ■ 現状・課題

松戸キャンパスでは、松戸市による広域避難場所に指定されている。「千葉大学震災対策要綱」において、二次避難場所として福利厚生施設前が指定されている。

## ■ 検討の方向

- ・ 災害時の拠点（構成員用備蓄等を含む）
- ・ 避難場所の再検討



広域避難場所

# 04-3 外灯



外灯分布図

施設環境部データ集より

## ■ CMP2017 からの変化

- ・外灯に関する不満度  
65%(2016) → 64%(2021)

## ■ 現状・課題

松戸キャンパスの主要な道路の外灯、照度は比較的十分であるが、一部に暗がりが生じている部分がある。外部空間の照度を調査し、外部照明計画によって安全性の確保を推進している。

## ■ 検討の方向

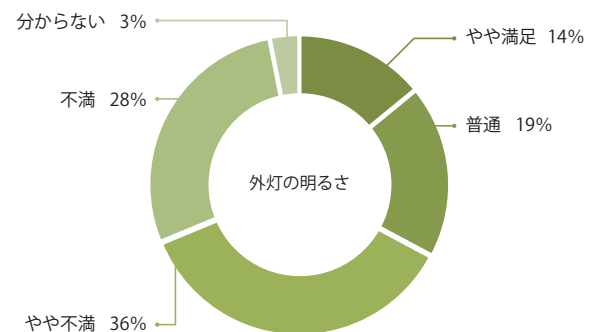
- ・外灯の増設
- ・外灯の光を遮らない樹木の剪定検討



① C棟周辺



② 北門周辺





# 04-4 犯罪・事故



犯罪・事故発生場所分布図

犯罪・事故等の記録資料より

## ■ CMP2017 からの変化

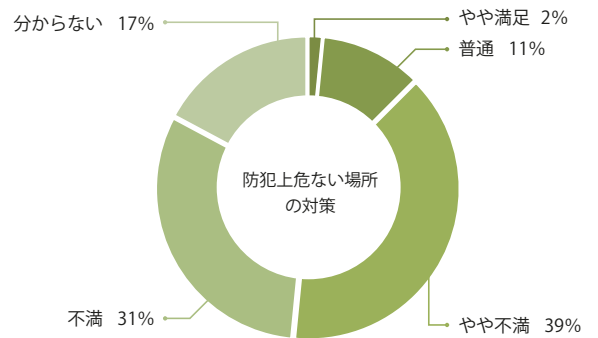
- ・防犯上危ない場所の対策についての不満度  
76.8%(2016) → 70%(2021)

## ■ 現状・課題

松戸キャンパスでは、4件の不審者の通報がある。アンケートでは、約70%が防犯上危ない場所の対策に関して不満を感じており、改善する必要がある。

## ■ 検討の方向

- ・建物セキュリティ確保のための標準仕様の策定
- ・研究圃場の安全性向上



# 04-5 廃棄物



廃棄物保管場所分布図

施設総務係資料より

## ■ CMP2017 からの変化

- ・ ゴミ置き場の場所の数についての不満度  
19.8% (2016) → 32%(2021)
- ・ 粗大ゴミ置き場についての不満度  
22.7%(2016) → 26%(2021)

## ■ 現状・課題

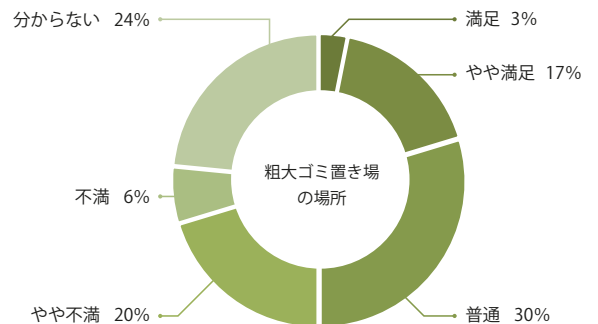
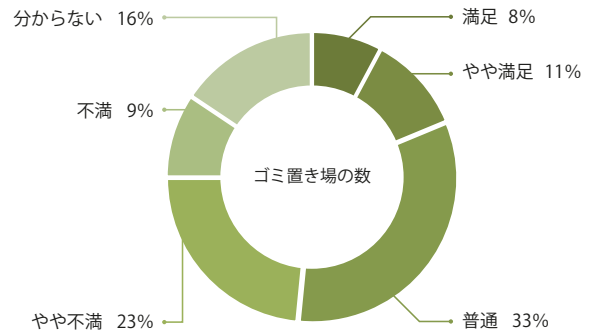
松戸キャンパスには、一般廃棄物、産業廃棄物の保管場所がある。

## ■ 検討の方向

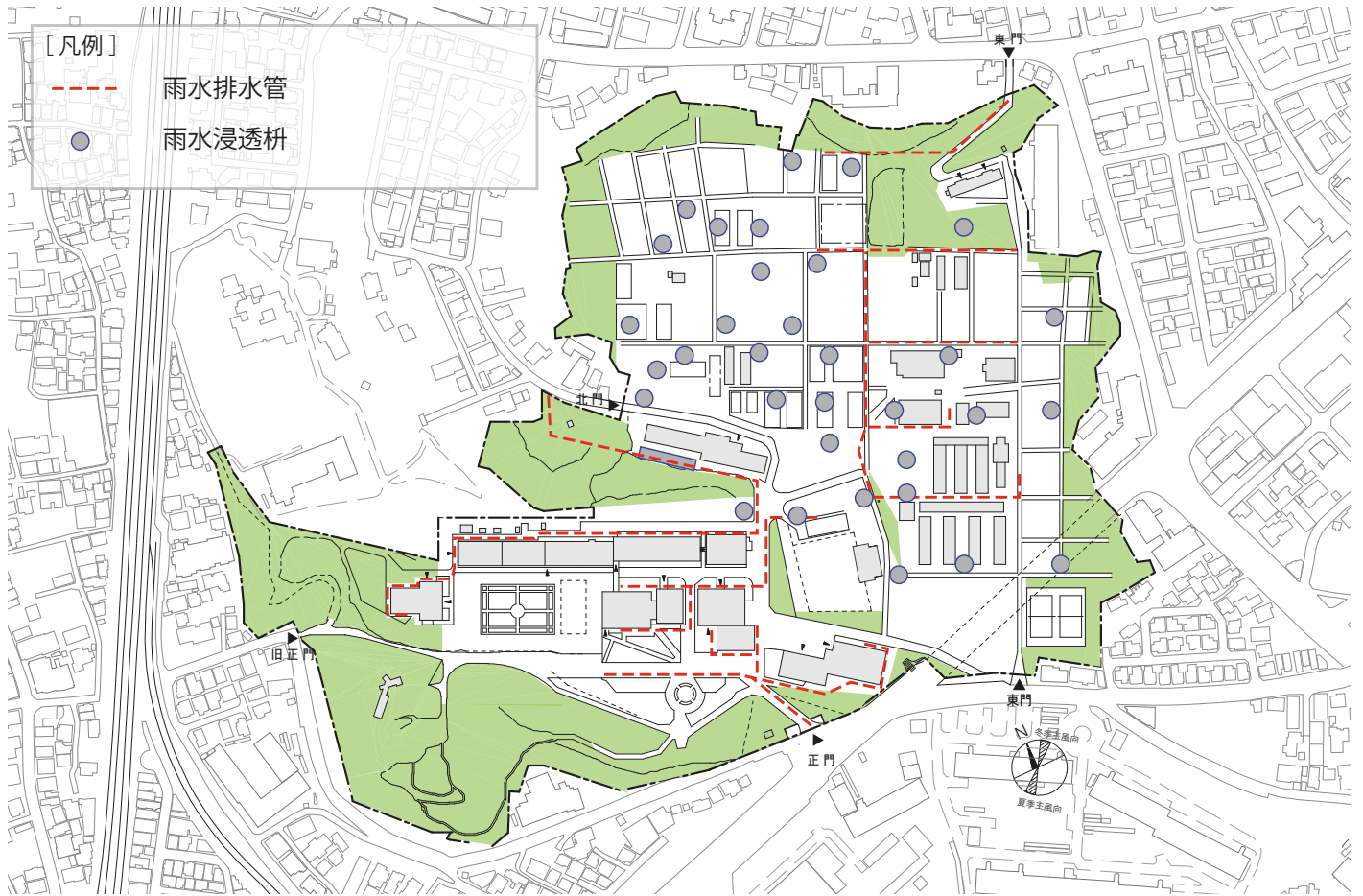
分別の徹底



C 棟裏の廃棄物保管場所



## 04-6 都市型豪雨



雨水・排水経路図

施設環境部データより

### ■ CMP2017 からの変化

### ■ 現状・課題

松戸キャンパスは、敷地に高低差があり、雨水の周辺地域へ流れ出すおそれがある。

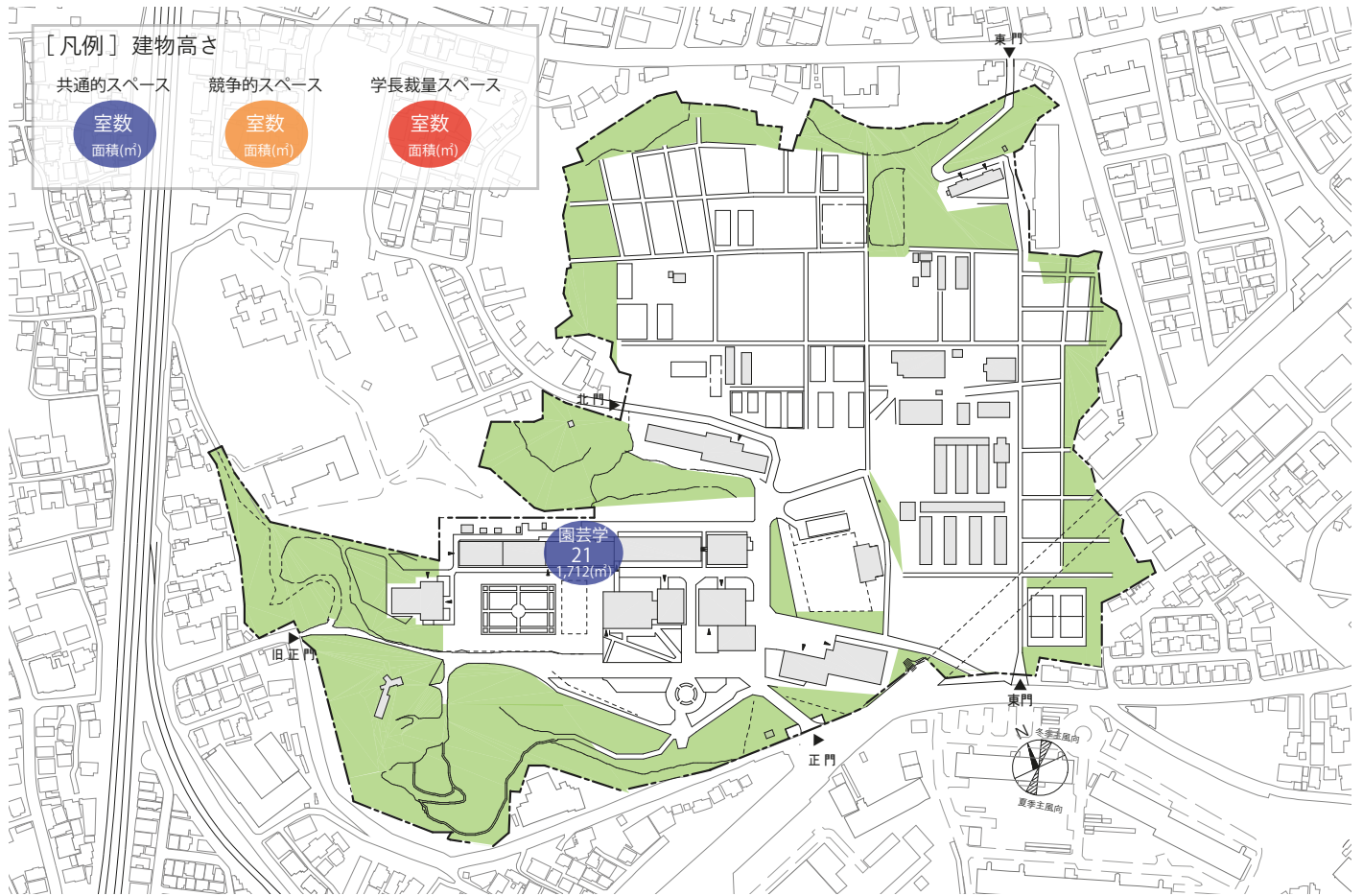
- ・施設の増加により雨水排水系への負担が増している。
- ・平成22年12月の集中豪雨の際、隣地に雨水が流出した。

### ■ 検討の方向

- ・雨水排水系の強化
- ・急傾斜地の保全
- ・キャンパス周辺の水はけの悪い箇所の把握と改善
- ・グリーンインフラ（レインガーデン・バイオマスウェール・透水性舗装・グリーンルーフ等）の整備による雨水の流出抑制、雨水排水系の負担軽減、設置コストの軽減



# 05-1 全学共同利用スペース



全学共同利用スペース分布図

施設環境部データより

## ■ CMP2017 からの変化

- ・全学で共同利用するスペースの変化  
合計 1,081 m<sup>2</sup> (2016 年) → 合計 1,712 m<sup>2</sup> (2021 年)

## ■ 現状・課題

全学で共同利用するスペースは以下の共通的空间のみであり、面積は、  
1,081 m<sup>2</sup> (2016 年) → 合計 1,712 m<sup>2</sup> (2021 年)  
となっている。

- ・松戸キャンパスの保有面積は基準面積をかなり下回った状態にあり、研究交流用スペースの確保に苦慮している。現在の施設の有効利用のみでは解決されず、面積の確保が必要である。

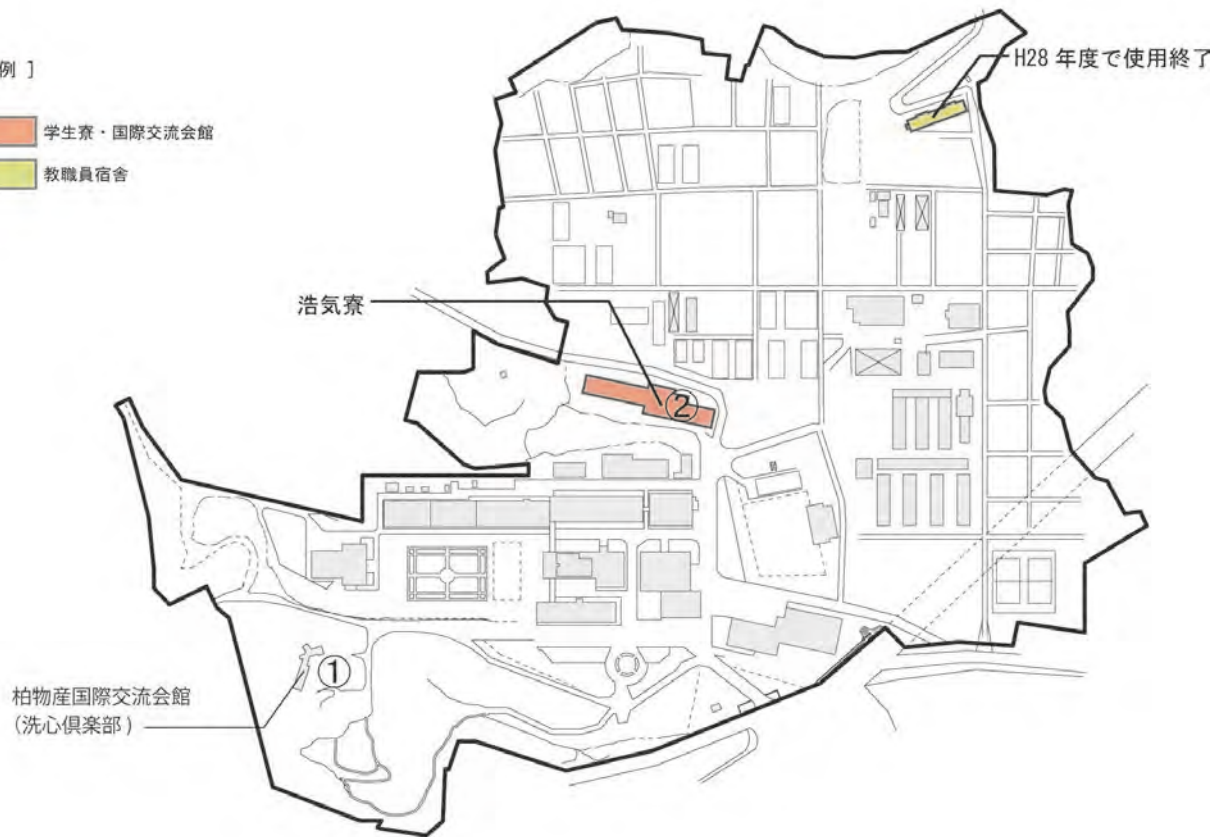
## ■ 検討の方向

- ・ファシリティマネジメント推進とスペースの有効利用
- ・施設管理体制の見直し

# 05-2 学生寮

[ 凡例 ]

- 学生寮・国際交流会館
- 教職員宿舎



施設環境部データより

## ■ CMP2017 からの変化

## ■ 現状・課題

松戸キャンパスには、学生宿舎である浩気寮（定員 62 名）がキャンパス内にある。

浩気寮 39%（入寮者 24 名 / 定員 62 名）（2022 年 3 月）

- ・多部署に比較して留学生の割合が多いが、留学生用の宿舎がない。
- ・周辺に宿泊施設がほとんどなく、交流者の宿泊が困難である。
- ・正門としての北門、キャンパスの顔としての北門周辺、それに続く交流ゾーンという位置づけに応える宿舎の対応が必要。

## ■ 検討の方向

- ・自己保有や民間施設借り上げなどを含めた住居系施設の整備のあり方
- ・宿舎北面の修景や緑化



① 柏物産国際交流会館（洗心倶楽部）



② 浩気寮